

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2774000992
法人名	特定非営利活動法人 オリーブの園
事業所名	グループホームひより
所在地	大阪府豊中市原田元町2丁目6番26号
自己評価作成日	平成 24年 1月 31日
評価結果市町村受理日	平成 24年 3月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774000992&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 24年 2月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひよりは庭や畑も楽しめ、動物がいる等懐古的でくつろげるホームです。認知症ケア専門士が3名おり、専門的ケアのスーパーバイズを行う等、計画作成や人材育成に力を注いでいます。個別ケアや自立支援においてはセラピーを中心とする環境を整えています。医療連携施設であり、看取りまでを視野に入れた緩和ケアに取り組んでいます。

看護師としての福祉活動を通して、地域福祉を広げたいとの理事長の思いからスタートしたNPO法人オリーブの園が運営している事業所です。ホーム内は回想法を取り入れ、全体に昭和の落ち着いたレトロな雰囲気です。社会福祉概念の変革を理念とし、共生社会づくりを目指し、理事長以下職員一丸として実践しています。利用者自治会があり、暮らしの中の様々なところに利用者の声が反映されています。職員の人材育成にも積極的に取り組まれ、職員は成長できる職場環境に感謝と誇りをもっています。家族支援にも力を入れ、家族への情報提供も工夫されています。「ひより」の名前がめざしている「心はいつもいいひより」の暮らしに、利用者・職員の表情が活き活きとしている事業所です。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	NPO法人オリーブの園は共生社会創設の可視化に努め、理念を活動として事業化している。グループホームケアにあたる職員は職員憲章を携帯し、年間標語も憲章に基づいて掲げている。	社会福祉概念の変革を理念とし、ふれあい文化の創設をめざして3つの理念を掲げています。職員は「職員憲章九ヶ条」を常に携帯しています。今年は「仕事は常にフレッシュで向上心を持ち、慣れても馴れないこと」を標語にし、職員の目に触れるところに掲げ、日常的に憲章・標語の確認をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	厚生労働省の勧めている認知症サポーター100万人キャラバンの「認知症サポーター養成講座」を地域展開し、昨年は12回開催、116人のサポーター養成を行った。又、認知症ケア専門士がいるホームとして介護相談にもあたっている。又、自治会主催の防災訓練等にも参加し地域交流を図っている。	自治会に加入しています。「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症サポーターを多く養成しています。敬老会では、隣の街かどデイハウスで発表会を行い、地域の方々と触れ合っています。毎年、秋には、隣家から柿の木を提供して下さるので、利用者と共に柿をとり、干し柿作りをしています。AED（自動体外式除細動器）を設置し、地域の方々に利用できるように周知しています。国際交流リーダー研修や大学からの実習生受け入れ等、人材育成にも力をいれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	上記の認知症サポーター養成講座を始め、自治会のバスツアー等で、認知症に対する知識等について説明する事や運営推進会議においても開催年より24回にわたり、地域の方々に多く出席して頂き、認知症に対しての知識を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常の運営推進会議だけでなく、近隣のグループホームに参加を呼び掛ける拡大会議、家族会等で開催回数よりも内容を充実させ、質の向上を目指している。	運営推進会議では利用者・利用者家族・地域住民代表・地域包括支援センター職員・市職員等が参加し開催されています。事業所から趣旨説明の後「施設見学」「事例検討」「介護相談員の受け入れ」等について、職員や家族等へのアンケートを基に意見交換を活発にしています。運営推進会議としての会議は、年4回ですが、拡大会議や家族会等運営推進会議同様の会議は積極的に開催されています。また、今後は会議の場所を地域包括支援センター等で開催し、参加者に「福祉」を身近に感じてもらう取り組みも考えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーに市職員が参加しており、情報交換等協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には、市の職員も参加しており、ホームの情報を伝え、意見も得ています。「地域を活性化するための話し合い」を開催し、行政からも参加してもらい、グループホームの力を発信しながら、一緒に地域作りを考えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束をしない事は重要事項説明書でも表明している。人権と倫理に重きを置き、身体拘束をしない学習を促進させており、職員にはパンフレットを配布している。	重要事項説明書に、「身体拘束を行いません」と明記しています。介護計画を作成するにあたり、身体・生活上のリスク、転倒のリスクの視点からも検討し作っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等においても時間をとりわけ、人権や虐待について職員はあらゆる視点から捉えられるように、自己の感受性を高められるような映画会等も行っている。新人職員には特に人権学習に重きを置き、学習提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については家族にパンフレットを配布する等を行っているが、必要とされる方には積極的にリーガルサポートやひまわりサポート等を薦め、順調に進んでいる。又、日本認知症ケア学会等で開催されている学習機会を捉えて参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約更新時に個別面談会を開き、説明責任を果たせるよう努めている。利用者や家族が持つ不安要因に対して、こちらからの説明だけでなく、不安に対しては十分に聴く姿勢も大切にし、信頼関係を築けるよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に2回利用者さんの自治会が行われており、職員は希望に添えるように計画し実践している。家族の要望は計画書に反映できるように記入欄を設けている。	利用者の自治会が月2回あり、そこで自分の行きたいところや食べたいもの、したいことの希望を表出することができます。「いちじくや桃の丸かぶりをする。観覧者に乗る。カニを食べる。そうめん流しをする」等、自治会で出た要望を実現し、利用者・家族に喜んでもらっています。利用者の趣味【編み物】の会もできていました。家族への毎月の報告書にも家族の要望等の記入欄があり、家族は、意見を伝えることができます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では各個人の意見が出やすいように工夫しており、QOS委員会として、個人の意見が反映されるシステムがある。	職員は、毎日仕事に対しての自己採点を行い、点数と理由を書いています。理事長は、職員の思いや考えを目指す方向に導くようにコメントを記入し、職員に返しています。交換日記のようです。「気づきの記」にも日々のケアについて、気づきを提出しています。人材育成に積極的に取り組まれ、職員は成長できる環境に誇りと感謝の気持ちをもっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では職員ランクが6段階に分かれており、個々の成長度合いによりランクアップし、給与に反映されるようになっている。又、福利厚生に手厚く、資格取得助成金等も整備されている。外国人が働きやすい環境作りも制度化されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて資格取得を勧め、取得に対する助成金や勤務の配慮をし、内外の研修に積極的に参加させている。法人のランクにより必須研修項目があり、人材を人財に、専門職として自立していけるようなメンター的な取り組みに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	拡大運営推進会議で同業者を呼ぶ機会を作る等、同業者間交流を図る事を積極的に行っており、茶話会程度に気楽に意見交換できる場づくりにも努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最近では病院から移られてくる方も多く、医療ソーシャルワーカーや担当医、看護師との関係を保ちながら情報収集に努めている。特に入居時は本人も家族も不安なことが多いと思われ、細やかな声掛けに心がけ、慣れて頂く事を第一に計画している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護苦労等に関わり、傾聴や共感の中でラポール形成に努め、信頼の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	引越し方法や送迎等、家族にとっては入居する段階での心配事も多く、事前面接や入居直前での打ち合わせ等、個々ニーズに合わせた支援を行うが、特に待機の場所等については、他のサービスを含めた待ち方法を選択できるよう提案している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作りや和風料理等、若い人たちが知らない事などを昔とった杵柄で教えてもらいながら、相互のラポール形成の構築は“共に在る”ことの喜びであると捉えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時に家族と本人の関係改善にも介入する場合もあるが、共に本人を支える事を前提に情報交換を行い、在宅への復帰も視野に入れた総合的な方針を打ち出している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会日や時間においても常識的な範囲であれば特に制約していない。グループホームに入居しても以前の馴染みの関係が断ち切れることなく過ごせるように、年賀状書き、又お便り書き等の手伝い等も支援している。	廊下には、「思い出の缶詰」～幼いころの思い出がいっぱいです～のタイトルで、利用者の思い出のひと言が掲示されています。利用者の懐かしい思い出を尊重し、懐かしさを共有できるコーナーになっています。入居前に通っていた美容院へ行く利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	クラブ活動やレクリエーションを通じて仲良くなれる機会の提供や、新入居の場合、自治会長などの助けを通して支援してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自立され自宅に帰られた時や、死亡退去された家族にも折にふれて必要があれば相談にのり、又、見えられたりお手紙を頂いたりしている。NPOとして社会福祉の一端を担っており、絆やつながりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の個々の思いや暮らし方の希望は日々のコミュニケーションの中で引き出せる様に努め、ルチンワークの中に個別ケアの視点や自立支援、本人の強みを活かせる支援を大切にしている。	月2回、利用者の自治会で要望を聞いています。また、利用者の思いは日々の会話等でも聴き取り、本を読むのが上手な利用者には、紙芝居をしてもらったり、デパート勤めの経験のある利用者には、紙や風呂敷を使って、包装やラッピングの指導をしてもらう等、本人の力を発揮できるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出生地や方言、食事の味付け、習慣等も回想法に活用し、パーソンセンタードケアとして安心して生活できるようにバックヒストリーを収集する事に努めて計画アセスメントにも活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人々のフレッシュなリアルニーズを常に気づきサポートして行くプロセスが日常であり、その柱となるエンパワメントとホスピタリティのケアを実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画方針は本人・医師・家族・職員の意見を反映させている。情報の収集、分析、提供に努めている。	ホーム独自の「情報共有プロセス」のシステムを確立し、情報収集・計画・情報の提供の3段階に分け、個別のデータに作成しています。職員間は、カードックスの個人データにより情報の共有を図っています。介護計画、サマリー、イラスト入りの生活プランニング等毎月家族に送付していますが、より解りやすいものにと工夫を重ねています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本マニュアルをベースに、個別支援サービスマニュアルを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ある時は実習施設となり、又ある時はホスピスとなったり、地域の集会所となったり、家族の宿泊所となったりと多機能であり、柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム入居後も入居前と変わりなく、馴染みの美容院でパーマや毛染めをしたり、うどん屋さんや食堂に行ったり、校区の行事にも参加できるよう機会提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診専門の医療機関と提携しており、月2回の定期往診により、居宅療養管理が出来るように支援している。又、24時間 365 日いつでも往診可能となっている。	ホームには往診専門の医療機関と連携しており、月に2回往診してもらっています。また、患者様専用ダイヤルで24時間365日、いつでも医師の携帯に繋がるようになっているので、夜間や緊急時も安心です。医師のサマリーは、毎月家族にも送付されており、家族も健康状態がわかり、安心しています。入居前からかかりつけの医療機関に通っている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士は健康上気づいた事を報告し、看護師は医師と受診などの調整を行っている。医療連携ホームとしてホーム内看護師がいるが、職員の健康管理を含めて健康診断等全体の保健・衛生も管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループホームから病院に対してのサマリーを提供している。又、病院の医療ソーシャルワーカーとも連絡調整している。特に精神科の入院は退院までの間、病院側との連絡調整、情報交換等を密に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針等はホームドクターと家族とのインフォームドコンセントにより定期的に、また必要時適宜行われている。 家族も共に参加できる看取りとなるように援助しており、希望によりお通夜・お別れ会等も手作りでサポートしている。	終末について、必ずくる死と送る側に悔いがないように、本人や家族、医師、職員が話し合って書面に残しています。また、棺桶の希望まで聞いています。開設してから、ホームでの看取りは30名以上います。ターミナルケアに入ると、職員はいつでも応援できる体制になります。家族も一緒に宿泊できるように支援し、お通夜・お別れ会も職員が手作りで行います。利用者職員で本人が好きだった歌を歌ってお見送りをしています。ターミナルケアの実践から職員は、「やり残しが無い日々のケアの大切さ」を学んでいます。利用者家族には、いざという時に慌てないために「もしもノート」を配布しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救命講習を受講し、豊中消防署より市民救命サポーターステーションに認定されている。救急マニュアルも職員各人に渡し、訓練も定期的に行っている。特に食事時の誤嚥についてはトレーニングを重ねている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・地震を想定して自治会の防災訓練等にも参加し、地域との協力体制構築に努めている。又、今年は“いざ”という時の防災訓練を日常の中に取り入れられるように隔月の防災訓練を予定している。尚、保存食は確保しているが、津波にも対応できるよう利用者・職員全員分の救命胴衣の確保を計画している。	消火器・スプリンクラーは設置し、保存食や水の備蓄もしています。自治会の防災訓練にも参加し、地域との協力を得ています。年に2回、避難訓練をしています。今後、防災対策として、救命胴衣の確保や避難訓練を隔月に実施する計画を立てています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に自分に置き換えて考えてみる事や、自己の感受性に敏感で有る事を人権や倫理として磨いていけるよう研修を行っている。	倫理綱領が作成され、職員間で共有できています。お作法研修では、お茶の先生に和の心得を学び、おもてなし、ホスピタリティを身につけていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	家庭的な共同生活の中では遠慮なく自己決定や自己選択が出来る雰囲気があり、自治会等も利用者間で運営されている。その中で活発な意見も出されており、職員は要望により行事計画を行い実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは共同生活といえども一人々の生活の場であり、その人の生活リズムを大切にし、暮らしを支援するために小さな仲良しグループでの趣味の会等個別の支援を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはその方の自尊心を守る大切なものであり、外出時等はTPOに配慮し、毛染めやパーマ等の為に美容院に出かけたり、マニキュアや化粧品などにも心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感があり、目で見てもきれいで、家庭的な雰囲気の中、利用者さんの力も借りて楽しく食事が出来るコミュニケーションも食の文化性と共に大切にしている。又、生活リハビリとして食器ふき、盛り付け等は利用者さんと一緒にしている。	食事前には、おかずのにおいが漂い、食事の楽しみが増します。食器は寿司屋や食堂で使用していたものを数多くいただき、料理にあった器で食事をしています。利用者の希望で、餃子・たこやき等、一緒に作って食べることもあります。利用者のできる盛り付けや食器拭き等は、職員と一緒にを行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分補給の目安は計画の中に入っており、不足する場合は食事形態や嗜好に配慮している。夏季や冬季は時に脱水に留意もしている。又、BMIの変動もモニタリングし、栄養に関して医師の指導も受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じた月々のサポート方法はセルフケア計画の中で示されており、必要な方は適宜に口腔ケア指導を受け、半年に一回はほぼ全員専門歯科医師による口腔ケアチェックや指導を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は排泄サインをつかみ、個別のトイレ誘導を主に失敗に繋がらない様に努力している。	マットレスや布団の下に敷いて睡眠データを記録するシステム「眠りSCAN(スキャン)」を取り入れています。全員ではなく、家族の希望や頻回に起きる方に、睡眠判定システム「眠りスキャン」(呼吸や心拍、体動により生ずる微弱な振動をセンサーが捉え、就寝中の“睡眠と覚醒のリズム”を測定し、記録・分析・表示するというもの)を使用し、目覚めの時間に合わせて、トイレ誘導するため、失敗が少なく、おむつ使用も減っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は水分・運動・セルロースの多い食事が関与しており、一人々の飲水の見直しなどを定めている。又、季節や発熱によって不感蒸泄にも配慮し、水分補給には特に気配りすると共に腹部マッサージ等も計画されている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体を清潔にするだけでなく、入浴は心のホリデーでもある。昨年は入浴剤で全国の温泉めぐり計画し、楽しいコミュニケーション目指してきた。今年は入浴セラピーを目標に香りや色を楽しんで頂く予定をしている。	昨年は、温泉の入浴剤を使用し、全国の温泉めぐりを楽しみました。今年は、セラピー風呂で、香りや色を楽しんでもらいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	施設全体が有機的でリラックス できる場所も多く、居室も家庭 的な雰囲気。特に緊張感もなく、 ベッドではいつでも休息できる 環境が整えられている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	処方薬の薬ボックスへの薬のセ ットは薬剤師に依頼している。服 薬時は、顔・名前を2人で確認し ている。薬の知識についても副作 用や留意点に至るまで学習を提 供し、その冊子はいつでも見る ことが出来るよう定位置に備え ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	ホーム内の自治会やクラブ活動 等もあり、自己実現としての発 表会の場合や機会も生きがい支 援として行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るよう支援している	近くの公園に散歩に行く日常 もあるが、外出行事は“自治会” により、利用者さんの希望や要 望を聞き、車で片道1時間前後 を目途に、出来るだけ要望に沿 えるよう、集団や個別での対応 に努めている。	日常には散歩や買い物に出か けています。外出行事は“利用 者自治会”で、希望や要望が表 出され、要望に沿えるように支 援しています。昨年は、観覧者 に乗りたいとの希望で、淡路島 へ観覧車に乗りに出かけまし た。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出等ではドライブインでのお土産を買う等の個別の買い物もサポートをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	最近では携帯電話を持つ人もいるが、手紙、礼状の代筆や年賀状書き、又、家族からの電話の取次ぎも行っている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切に、ホーム全体が醸し出すレトロな雰囲気大切にしている。音楽や香り、花や緑、熱帯魚や猫などのふれあいもリラックス感がある。	回想法を取り入れた懐かしい家具や置物、季節感のある花はどの高さで見ても美しく見えるようにと工夫して活けています。熱帯魚や金魚を飼育し、利用者は猫とふれあい、リラックスできます。火鉢には炭火が燃えていて網をかけているので、手をかざすと温かく懐かしさがあります。加湿器、水琴窟、植木鉢が置かれ、加湿にも配慮があります。廊下のあちこちに椅子が置かれてあり、ゆっくりとくつろぐことができます。清掃専門職員がおり、ホームの隅々まできれいに保たれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとしたスペースがあり、談話室や中庭でくつろいだり廊下でも長椅子や対面椅子などを用意して居場所作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の住みなれた部屋をできるだけ再現できるように使い慣れた家具等も持ち込んで頂く等の工夫をしている。	居室には、エアコン、空気清浄器、流し台は設置してあります。利用者は使い慣れたタンスやイス等の家具類、写真や思い出の写真等を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫しています。部屋に飾るカレンダーや入口ののれんは、自分好みの物を選ぶ等、利用者主体の支援を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の表示はわかりやすく、言葉のセンテンスを少なくしている。色の工夫やデザインを活かした手すり等で、さりげない中にもわかりやすさを工夫している。		